816
34
8

寶曆集成

二十

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 816-8

ガラス使用

一ノ六十七　第三棚

御觸書集成

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 816-8

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 816-8

ガラス使用

東京帝國大學圖書館
舊幕府引繼書

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 816-8
ガラス使用

一　宗旨之部

一　祭礼之部

一　道中往還之部

国立国会図書館　　タイトル『御触書集成』　請求記号 816-8

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 816-8

ガラス使用

一宗旨之部

定享二丗年二月

覚

一切支丹宗門之儀、御触之通ニ候ニ付、
所中家持ニ不及申、借屋ニ至迄、
名主ニ而一季居ニ申付候ニ付、
可申分ハ毎年二月ニ吟味之上、

之形気生ぜ通町中若衆之後を町内
年寄月行事立合寺子歌元重家指
之後を其町之若衆方に渡し寺子歌元重
借屋店借り之後を家主立寺子歌
元重急度吟味仕自分勝手之義を門を不及
中他之座浦茂不安之者を置
事速可申出若隠置服
可為曲事
二月

定享巳卯年三月

覚

一阿蘭陀事ニ付日本高賞有仕者
法作分ニ毎年長崎会当岸ニ渡
船ニ乗法紅毛南蛮ニ切支丹宗門ニ
過用法仕候ニ依入魂ニ申遣

國より相受とゝふ
彼宗門と里日本とゝ通事一切不可仕
勿論宗門ゝ者船よのせ来間しき事
一不相替日本為高麗人宗門ゝ渡海仕度事ゟ
切支丹宗門ゝ渡分ゟ
有ゝ
新規ゟ
道筋ゝ渡候て
手形人ゟ
一日本渡海ゝ唐船不
往来國ゝ門奥南蛮人ゟ
有ゝ
國於ゝ
新年着岸ゝ

一可差上事

附流球國之日本ニ相つゝ事

一て見合差彼奪取候事

以上

三月

寛延三年庚午二月

寺社奉行

一向宗改流之儀唯今返上

公儀ニ而御改上ニ而

改流被仰付候共彼是差障候儀無之

之通已改流被仰

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 816-8

ガラス使用

右而之所漂流
所制禁しかる
故因私に売買
切支丹類族
之内渡り
肥後国

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 816-8

ガラス使用

各禮之記

延享元子年六月

前月十日来坂氷川明神御礼并神供
通ル道筋町〻ニ人当有之哉
相改ル事ニ候

右之趣御心得不洩様可被
六月

雑（宝暦集成）

延享元子年九月

覚

来十酉神田祭礼ニ付通筋
之儀湯島廣小路ゟ
神田橋ゟ入ル外
桜田厩前ゟ来ル
分

延享元子年九月

光

来十吉神田橋御番
之節鳥居小路御
神田橋ゟ入候ハヽ御
右之御門ゟ御
出候ハヽ

一 神事祭礼之節、御供物ニ用ル魚鳥、其外一切精進之分ハ、
勿論之事、魚鳥ニ而も精進之分ハ、
不苦候事

一 獅子踊・神楽・祭礼ニ相随ひ、
諸人群集いたし候節、
喧嘩口論等有之間敷候事

一 神事祭礼之節、
家内不浄之者、
不残遠慮いたし候事

一 神事祭礼之節、
近所ニ不浄之者有之候ハヽ、
其家江立入申間敷候事

一 神事祭礼之節、
家内ニ不浄之者有之候ハヽ、
其家江立入申間敷候事

一 神事祭礼之節、
近所ニ不浄之者有之候ハヽ、
其家江立入申間敷候事

一 神事祭礼之節、
家内ニ不浄之者有之候ハヽ、
其家江立入申間敷候事

一 神事祭礼之節、
近所ニ不浄之者有之候ハヽ、
其家江立入申間敷候事

一 神事祭礼之節、
家内ニ不浄之者有之候ハヽ、
其家江立入申間敷候事

一 神事祭礼之節、
近所ニ不浄之者有之候ハヽ、
其家江立入申間敷候事

一 神事祭礼之節、
家内ニ不浄之者有之候ハヽ、
其家江立入申間敷候事

一 神事祭礼之節、
近所ニ不浄之者有之候ハヽ、
其家江立入申間敷候事

一 神事祭礼之節、
家内ニ不浄之者有之候ハヽ、
其家江立入申間敷候事

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 816-8
ガラス使用

急度之申付候
一祭礼之月町中大小之
一近月訴事有之候
右之通急度相吉候様可申渡
九月

延享二丑年六月

寺社奉行
大目付
町奉行

寺社奉行
老人
大目付
老人
町奉行
老人

右明十晦山王祭礼当日来ル晦日
上覧有之候相越候間
二之丸中渡ス

六月

明十晦山王祭礼ニ付列騎出之儀
従来之通可申付候
従者之儀ハ
上覧有之候相越候間
二之丸中渡ス

六月

明十晦山王祭礼当日来ル晦日
上覧有之候相越候間
二之丸中渡ス

御月番
老人

六月

延享二丑年六月

一前六月十六日小王爺礼御済ニ而帰
帆中者九州長門ニ而風変ニ而松平筑前
守領内博多ニ横田屋迄松平大隅守様迄
参り候由ニ而途中ニ相詰候役人迄不残
相改御書附ニ而一統ニ門内ニ而

順行並ニ行列ノ向ヲ
気受次第ニ可相改事

一 警礼通例ノ法ヲ以テ
屋表不小意不右近将監
通常経指令ス事

一 警礼法ニ者先官ヲ
内ニ不及中門方ニ迄行候通例ノ
支不申候ニ付警法曲事ニ
一切於中官衙不可
中官衙事

附警並ニ歩行者大具見表
ものむさと出ニ中官
一 条礼法ニ者見物ニ
又ハ宿所ニ論抔不法

附届ニ而ハ決而見物ニ参ル
一切不出申間敷候ニ付
法令之事

一神輿渡御道筋町々横町
自由ニ而ハ机ニ而仕切
桟敷雨除等ニ而
桟敷雨除ニ而ハ
一獅子ハ相定候役人之外
一切揃中間敷候

相背候者有之候ハヽ
ニ申付可申候事

一神輿渡御道橋悪敷
勿論御通掃除之事

水ヲ出ス事

一御礼ニ罷出候者警固
警固ニ出候者御通中
間敷事

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 816-8
ガラス使用

一祭礼御供之節丹野所出之中官衣并花刀帯候
白刃之長刀ニ而不苦事
一祭礼鞠所御門より行桁御門つゝし外迄端を通り
其支より行桁御門つゝし内ニ而
庶民ニおゐて通行之節少成不支様ニ可仕
尤過半メニ有之節ハ通合不苦仕事
右之振舞礼御供ニ差出候者共同出道筋ニ而
不及申見物之者其外町中要而中間小者ニ
相守可申候若於有之者急度
可申上
六月

寶暦九卯年三月

不二禁礼之沙汰一可レ相二心得一候事

相隔候ニ付近来ハ相成相遣し不レ申候

不レ相二知候一神事之沙汰可レ致候

町中退転無レ之様ニ随分おのおの方ニ而

お指図之事ニ候条急度申渡候

先年相納め申し候処、
訴訟取計ひ候ニ付、一切
神事ニ而、
敵討之儀ニ候ハヽ、
訴物差扣候ニ及ハず、
ホヽ言出候ハヽ、
乍夜服ニ而ハ
難渡ニ候ハヽ、
唯今まで相対ニ而
類焼ニ付、不相変ニ入銀
相対ニ而取扱候ニ付、
ゟ申し
右之通ニ
相違無御座候、
以上

不二参礼之節可申旨大慶寺法秀参礼
初年之節之大慶又右桃灯籠物来
法有元文三年午年九月私領ニ罷有
無異ニ被帰候ニ付大造成候不法
至度々相当ル
本寺新町中不残ニ而稲荷
四月

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 816-8

ガラス使用

道中筋之部

延享二丑年六月

道中宿々ニ而往来之者ニ給金ニ而宿仕
候もの集り二而群盗致候節ハ
右之内ニ盗賊火付等之悪党者有之
有之ハ得た宿中より不捕訴出候ハ
稀成事ニ候ニ悪党を捕へ候ハ

元出ハ元禄吟味ノ節宿中度々呼出サレ
若シ江戸ヨリモ召連留雑用銭ヲ
相定ル法ヲ設ケ召捕ノ後ニ而ハ公儀
盗人返捕ノ得ヲ事ニ洩ル抔ノ事ニ
向後ヲ以テ永ク停止ノ吟味ヲ以テ実抔
元ヨリ宿中困窮ニ相成抔ノ段々ニ
ト渡ル事ハ勿論ノ及見及ニ
ヨリ

ヨリ召捕ヲ訴出ル抔
捕遣等ヲ以テ分ヲ
召捕ノ元ヲ止ル為ニ
いたし返捕事済ル
ヲ以為替事
右ノ通寄ヲ以相達ル
六月

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 816-8
ガラス使用

延享二乙丑年三月

覚

一 御用ニて道中往来之節
御朱印人馬之外添人馬多く出
相煩ひ若しくハ途中ニて急用之添人馬出
させ候儀ニ為候間
御朱印頂戴

之外ニ此の入人馬之分ハ御賃銭ニ
相遣急度お拂ニ成ル事
一御用小荷物ニ候共途中ニ而ハ決而
荷ニ不成候ハ乗人ニ而ハ不成候
没人ニ有之事ニ候間
賃人ニ而入荷お之ハ
賃銭ニ而お遣相拂ニ人馬割没ニ有

同座場ニ相残ル要用ニ
之外ニ家来ニ而雇ニ有之ハ
荷物駄出ニ相ニ拵ニ没人ニ而ハ
一切ニ出ス間敷候ニ間ニ場ニ而相ニ拵ニ
ニ候中分ニ道中ニ有之ニ
中渡ニ事

一途中ニ而ニ家来ニ雇ニ人足

一 道中人足賃銭之儀、御定之外、
荷物之多少・乗掛之有無ニ而
不可増減事
一 人馬賃銭、御定之外、
不可取事
一 雇ニ者ニ而も無之、
荷物ニ付添候者ハ、
人馬賃銭、
御定之外、
不可取事
一 雇ニ者ニ而も無之、
荷物ニ付添候者ハ、
人馬賃銭、
御定之外、
不可取事

肇候有之候相定候後右之通之儀
於有之者兼又早速道中
宿々江中渡出可有之候事

一
一統之御貫目之儀御定之通世上江御遣拾年之
内外以今改之御貫目相改場所定之
候定之通世上江御用之御
金子之儀ハ
江中共
之外宿々

中渡出間敷候事
宗大坂酸腐二度腐候
賛同壱かさ之内
候事
高人之御物
歩行
出来候ハ
生糸
```
```

右等より段通ニ敷物ニ相通シ
其定なき方向後架棚
敷物ニ而ハ其ニ書記ス
儀文ニ於ハ敷物ニ
ものなれハ其ニ通ス
ようニも記ス改ニ
為物有ニ記ス
ニ而ハ

相通ジて掛ニ
金銀ニ上敷物ニ
論ニ人ニ為ニ
公記事

一 江戸ニ大坂ニ外国ニ
ニ諸事ニ御用ニ
重ニ為ニ

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 816-8
ガラス使用

年上洛用意候ニ付中之人馬賃銭不残
相拂已来外宿ニ而人馬賃銭出候ハヽ
可注進候ニ付外宿ニ而人馬賃銭出候
儀ニ付申渡候処ニ今以外宿ニ而人馬賃
銭出候ニ付重而申渡候ハヽ
外宿ニ而人馬賃銭出候ハヽ
其宿ニ而ハ不届ニ付
ニ候ニ付中ニ而ハ
ニ候ハヽ

若賃銭重而ニ付候又ハ
ニ候ハヽ
ニ而ハ
ニ而ハ
ニ而ハ

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 816-8　　ガラス使用

家来ニ不法有之ハ先主人ヲ
我咎ヲ以テ成敗ヲ為ス
右之通二十連二百年相頼
相成ル和睦ニ付同今ハ
出来ル和睦ニ仕ル為ニ
今後ニ至テ無
以上

覚

一旅人ニ同宿ヲ被リ二泊ヲ
ニ越ル以相改メ不相届
候人ヲ其ノ宿ヲ旅人
ヨリ訴出ル事

一御代官ヨリ領内ヲ
ノ中事

一御人会等之儀ニ付、後
世ニ相残候事ニ候間、相談
無用之事

一囚人宿ニ悪党ニ者有之ニ
貸銭収之ニ候ハヽ、御
収納之ニ成ル間敷候間、今
ニ捕亜次第ニ者ニ
ニ候ハヽ、御代官私ニ
地ニ而出ル事ニ
一人馬賃銭ニ候ハヽ、御
ニ不構事ニ候
宿ニ而強勧ニ
間敷ニ候ニ相
一御触ニ候共、自
等ニ而強

吳服之儀ハ格外之儀ニ候間、
以後
一 被仰出之上ハ、
御定之外ニ被遣候ハヽ、
請取候人ニも
御咎可被仰付候事
以上
延享元年二月

於江戸ハ、
御留守居
一 公家門跡方、
御使ニ而被遣候節ハ、
三拾弐人馬ニ相渡、
御定
人馬之外ハ、
無賃銭ニ而

人馬出かゝる国境より松よりかゝり相変
而後之飛脚ハ飛脚宿ゟ飛脚宿へ
御定之通賃銀請取之
一御用ニて道中往来ニ荒中尾之通筋
御条目之人馬数ゟ外ニ一切
相変ル而後ハ御条目之人馬数ゟ外添
御条目之人馬数ゟ外ニ而
御定之賃銀請取之事

人馬出かゝる国境より松よりかゝり相変
一道中往来ニ荒中尾之通筋
御条目之人馬数ゟ外ニ一切
相変ル而後ハ御条目之人馬数ゟ外添
御条目之人馬数ゟ外ニ而
御定之賃銀請取之事

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 816-8

ガラス使用

かる於籠木生ゝ枝こ中揖ゐて人馬割没人こ
附云こゐて一切不可て先おこ中達皆宿
小こと其旨を存ゝ一貴こ人馬不相立
可仕候上不得こ旅こも有こゐて誰之家来
為りとも不限重ゐ東道中を行ゝ可附
こ事

一 近年東海乃節宿かる於籠多こ相立別こ

一 御用小分て往来ゐて本一番荷中之家来
来こ雇こ者こ一かる於籠より宗貞後も不拂也
相定ゐ分向後右こ旅猴より馬かる於籠宗助
さ数相て払中分有ゐ通ゐ宿こ当候重ゐ
存ゝ御用並ゐ左中安中こ家来たりとも
ゐふとも弛ゐとゝして於籠出ゐ事堅く
云用こて往病人赤ゐこ於籠ゐ

節ヶ相應ニ賃錢ヲ請取出ス事

一 該荷拂賃同法ニ而取扱ヒ候ニ付テハ重テ小口相改ニ及ハス若不埒ノ儀有之候節ハ其筋ヘ訴出ル事

一 京大坂發府東海道ヲ通リ候荷物ハ勿論其中筋ヘ送リ候ニ付テハ其荷物ヲ初駄ニ東海道ヲ通リ候荷物ヲ年ヲ經テ次通リ小口ニ而ハ少ク分ニ而ハ重ク次通リ小口ニ而ハ少ク分ニ而ハ

一 該屬人共ヨリ分ケ而後ヲ商人ノ荷物ヲ請負ヒ候ニ付テハ重テ小口相改ニ及ハス若不埒ノ儀有之候節ハ其筋ヘ訴出ル事

一 京大坂發府東海道ヲ通リ候荷物ハ勿論其中筋ヘ送リ候ニ付テハ其荷物ヲ初駄ニ東海道ヲ通リ候荷物ヲ年ヲ經テ次通リ小口ニ而ハ少ク分ニ而ハ重ク次通リ小口ニ而ハ少ク分ニ而ハ

一 該屬人共ヨリ分ケ而後ヲ商人ノ荷物ヲ請負ヒ候ニ付テハ重テ小口相改ニ及ハス若不埒ノ儀有之候節ハ其筋ヘ訴出ル事

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 816-8
ガラス使用

宿くより成共先等有之共其節
相対又ハ不相対ニよらず其牧主ハ
書附ニて訴文ヲ差出し一人馬ハ其先
百姓ハ若非分之儀於有之ハ
重畳申立ル事ニ
附リ余ニ而御急用夜通ニ成共
来ル事ニ
一 江戸表ニ而ハ御用ニ而ハ
継立ハ不申候御用ニ候ハヽ御賃銭
御用ニ申立賃銭ハ不申請ハ
相対ニ而ハ賃銭ハ不申請ハ
人馬数ニ応賃銭ハ相渡ス
候ニ付ハ不申請ハ
中ニハ百姓ニ而ハ

賛同等之本谷物売買不相成事
勿論之儀ニ候得共中ニハ一切継送等為致候ニ而
者其筋之取扱ニ相成候儀ニ付
御心得之事

一 自今仮宿ニより添人馬差出候儀
ニ付ては仮宿黄助御免ニ相成
候ニ付ては加宿黄助之儀ハ
無之候間加宿黄助村ニ而ハ
出さゝる事ニ候間勝手次第
不取扱候ニ付仮宿ニ而ハ
ゝる事無之候間勝手次第
出入ニ付ては遠方ニ而
相対ニ而ハ不取扱候事
附加宿黄助村ニ而ハ
無之候間加宿黄助村ニ而
出さゝる事ニ候間勝手次第
不取扱候ニ付仮宿ニ而ハ
ゝる事無之候間勝手次第
出入ニ付ては遠方ニ而
相対ニ而ハ不取扱候事
附加宿黄助村ニ而ハ

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 816-8
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 816-8

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 816-8

ガラス使用

定

一道中往還之面々人足大勢
通年不拘従方角御用向雖
又は出書之面々より雇之人々
権威を以強而
人足を取之方より銭を出
指出ス或は向ふより指出候人足を
持せ来る者い馬賃銭
又は宿々の者より幣
若宿々の者申合有
なし候出来難渋
江戸表大坂より雇
中渡人足賃銭雇
人足を取之

有之筈の不届仕方に付
手錠二人宛元〻帳面
首之〻御定之通
銭米之〻銭之同
仕方に世話致候間中
族就有之ハ雇之者多り共
押重遣申事
渡り方食改之上当人
可届出事

一
京大坂駿府三奉行
重キ者抔ハ有之
不埒之儀出来之節
為御仕置御
抔に仕置被仰渡候

船中諸式之儀交易之
事又ハ諸御役所へ
入用銀銭等之儀
重キ荷物之儀ハ
諸御相談之上
事ニ候間
事ニ候間
諸事
諸事
諸事

随ひ相定め候人馬賃銭の儀
聊かも滞候儀これなき旨申渡
より急度心を用ひ精勤いたし
候中渡方の儀申分これなく賞詞
並びに御紋付の提灯御免
候ほか御褒美として
候もの多し
御用筋にて
継立て候儀に候間無
遅滞取扱ふべき事

一諸向より当宿へ賃銭の儀
掌領主より直に触渡候人足
賃銭の儀は
触渡候人足へ急度申渡置
候へ共心得違ひの者
も有之候間
触渡候節
相改め
相当の賃銭に候哉
相改め
触渡候様
取計ふべき事

吟味之上決定申渡事

一　改革以前寅二月

右之節之書翰一通宛名御高連之者

出府之節途中ニ而差出候書翰

遠ク

寶暦二申年十二月

伏見御奉行ゟ兩御目附宛ニ而御屋敷

ニも御出等被成候ニ付御風俗

ニ而ハ御旅中ニ候間別而御入念被成候

有之旨被仰渡候ニ付御出立

右仕法書稿ニ而差置候ニ付申出

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 816-8
ガラス使用

右之趣伝奏迄可被達候
以上
十二月

寛文八申年十二月

定

一御用之筋有之候ハヽ
御条目之人馬之外添人馬之相定
相改之箱之中定
御朱印之通可相勤候

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 816-8
ガラス使用

御条目寛救之外ニ人馬之分ハ御定
之賃銭ニ相違無之様可被
一御用ニ付急ぎ候節ハ
被仰出之趣ニ而ハ
役人出立之節ハ
御条目之人馬無賃之
賃人馬之方ニ賃銭ニ
別段之者ハ
御定之賃銭ニ相違無之様
ニ而ハ
役人出立之節ハ
問屋場ニ相詰
ニ而ハ
一

近年ニ至リ人心軽薄ニ
仕来リ候ニ付テハ
ニ人ニシテ方ヨリ
或ハ自分ニ
馬ニ乗リ
ル者ニ対シ
ル者中ニ

族義於土之之間中宿之ゝ為政之家事
黄塵之ゝ着九ゝ之ゝと之ゝ不當亜不亜
乃中某訴ニ来訴ニ対シ候ハヽ経伐
之上両人之ゝ不及中裁ニ候ハヽ両人之ゝ意ニ
条ゝ之ゝ旨ゝ之ゝ訴事
一 雖某之ゝ両ゝ家某義ニ者ニ之ゝ訴訟
訟簿銭未ゝ之ゝ払遣ハヽ拘ハヽ払ハヽ急度之ゝ
中ゝ分訟簿銭未ゝ之ゝ不相遣ハヽ減分ハヽ急
度之ゝ上ゝ出ゝ訴ゝ之ゝ也ニ払拘
之ゝ家業義ニ之ゝ理ニ払ハヽ両後ニ於ゝ之ゝ
候共ゝ之ゝ理ニ当ゝ之ゝ不ゝ之ゝ義ニ之ゝ
候共ゝ之ゝ理ニ当ゝ之ゝ不ゝ之ゝ義ニ之ゝ
中ゝ訴ゝ之ゝ理ニ当ゝ之ゝ不ゝ之ゝ義ニ之ゝ
一 訴訟物費ニ之ゝ候ハヽ両ゝ之ゝ
之ゝ訴中ゝ分ハヽ先ゝ物費ニ

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 816-8
ガラス使用

荷物有之ニ而ハ不宜ニ付、
御触書中建前ニ
御座候ニ付、
御家中ハ不及申、右領
分之者ニ而も無断ニ
而ハ他所江
参候儀ハ
不相成候、
一
江戸表大坂ニ而ハ
諸事ニ
御用ニ
而ハ
御家中ハ
勿論、
百姓町人ニ
而も
御触書ニ
相背候ニ付、

重ねて荷又ハ擔ニ等の物多クハ不審ニ候ハヽ
不絶送ニ可申候ニ而道中年行ニ
許ニ而飛脚ニ上候ハヽ
掌領ニ不及申候ニ付
一道中宿ニ而ハ
後人ニ而ハ
三日路も不申候ニ付
俵ニ有之ニ而相定ひたる宿ニ而ハ
仕形ニ而ハ同座ニ
人ニ成候用ニ候
同座年ニ
為メニ附添ニ
道中年行ニ
ニ上候度ニ
俵ニ有之ニ

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 816-8
ガラス使用

一旅人ゟ門宮を破り不法成候有ゝ
証書ゟ趣を以相改差留候
頃ゟ役人ゟ達一通
中使ゟ上ゟ及吳候
事決ゟの所有差添
右ゟ通ニ達一ゟ事
吳示ゟ旨を以ゟ
一町人ゟ會符を渡一事
改候後有ゟ共相受ゟ
候事
一御用ゟて往来ゟ画
休ゟ候節廣ゟ日限
變ゟ節ゟ宿場ゟゟの
ゟ上裁許ゟ事ニ

一、後有之右宿之内日限之定有之不致二而も
　遅有之右宿之内休泊致し候先
　遣之極至而不陳候ハヽ其所之役人
　不及申候ハヽ乗合之節を外
　無理ニ宿ニ休泊致し候事ニ候ハヽ
　其後ニ宿場不便ニ候ハヽ
　前ニ相定候条以来ニ右躰之儀ニ候ハヽ
　可相断事。

右ニ條々ニ而相守ハヽ先達義度ニ御触
有之通年道中宿ニ而ハ先生之外後人不法之事ニ有之間
不及戸助帰村迄義及困窮ニ出相定
外宇数叅ニ上候ハヽ作出ニ而後書面
ニ而急度ニ而相守ハヽ組中支配
ニ而急度ニ而相守ハヽ組中支配
ニ而急度ニ而相守ハヽ組中支配

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 816-8

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 816-8

ガラス使用

816
34
8

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 816-8

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 816-8

ガラス使用